



# 学校だより 9月号

横浜市立日吉南小学校

令和4年9月2日

## 子どもたちの笑顔と持続可能な教育へ

校長 山中 真紀子

子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。夏休みに入ると同時に感染症拡大のニュースが続き心配していましたが、工夫しながら充実した夏休みを過ごしていたことが子どもたちの話からうかがえました。家庭や地域を中心として過ごした時間が子どもたちをさらに成長させていることも感じました。

7月15・16日に6年生と一緒に日光修学旅行に行ってきました。学校から同行した添乗員さんにより天候による行程変更も素早く対応していただき、充実した2日間を過ごすことができました。予定になかった3つ目の滝を見ることができたり、温泉に入ったり、迷いながら家族へのお土産を選んだり、また部屋で過ごす時間も子どもたちにとって格別のものとなったようです。驚きや発見を素直に言葉にして表現できる6年生、しっかり時間を守って行動できる6年生、校長の鼻目目でしょうか、「日光で出会うどの学校よりも日吉南小が一番」とうれしい気持ちで帰ってきました。夏休み前日には「折れない心を育てる いのちの授業」を行いました。めぐみ在宅クリニック院長・一般社団法人エンドオブライフケア協会代表理事の小澤竹俊先生と一緒に、「苦しみからの支えに気づくこと」「苦しむ人を前にしてわたしにできること」「自分を認め大切にすること」について考えていきました。子どもだけでなく、子どもたちの周りにいる教職員をはじめとした多くの大人たちと共有したい時間でした。子どもたちが、「自分を大切に」「折れない心で」よりよく生活を送れるよう、保護者、地域の皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。

さて、7月の暑い盛りにクーラーの故障があり、急な時程変更に対応いただいたことに感謝いたします。帰りが早くなったことで、「放課後にゆとりができてよかった。」という声が聞かれたり、高学年が学校開放に遊びに来る姿が見られたりしました。また、学校での時間に緊張度の高い子どもたちにとっては、早く帰れることが明日への元気の素につながったということもありました。担任たちはどうでしょう。給食後の下校とは言え、5時間行きますので、今まで通りの授業準備は必要です。午前中に5時間という初めてのことに、子どもたちが集中し、効率よく授業を進める工夫も行いました。普段は子どもたちの下校後に、校内会議や研修、授業準備を行っているのですが、勤務時間の16:45には終わらないことも多く、今問題の超過勤務となっています。子どもたちが15:30に下校、職員の休憩時間を45分間（とらせなければならない）、16:15からの30分間では到底足りないのです。教員が大切にしている「よりよい授業づくり」や「児童理解」の研修や出張でさえも、子どもたちのいる時間にはと参加を遠慮してしまうのです。しかし、この期間に安心して研修や出張に向かえる環境を作ることができ、研修への参加者が増えました。また、職員同士が子どものことや授業のことを話す時間が増え児童理解や教材研究が深まるとともに、職員室に笑顔や笑い声が増えたように感じました。これらのことは、子どもたちや日吉南小の教育にプラスになっていくことでしょう。7月にもお知らせしましたが、夏休み明けには、来年度の時程検討に向けて3回の午前中5時間の施行日を設けさせていただきました。子どもたちの笑顔のために、日吉南小が持続可能な教育を行っていくために、「何を大切にしたいのか」「何が大切なのか」も併せてしっかり検討していきます。



夏休みが終わり、秋に行われる運動会や遠足を楽しみにしている子どもたちもいることでしょう。学校では感染症拡大防止に努めながら、前期のまとめや行事の準備をすすめていきます。充実した学びと活動が継続できるように、教職員一同力を合わせ取り組んでまいります。保護者、地域の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。